市駅まちなか　まちぐるみミュージアム
特別プログラム

# 市駅まちづくり展

## ー和歌山市駅前を一歩ずつ未来へー

## 2020.11.7(土) 8(日) 14(土) 15(日)

## 10:00~16:00

会場：市駅 GGP サロン（和歌山市杉ノ馬場 1-39）

地域と和歌山大学観光学部永瀬研究室が二人三脚で進めてきた
「市駅まちづくり」の7 年間の軌跡と現在、
そしてこれからの取り組みを発信する展示会です。

**展示内容**　市駅前のまちづくり活動の歩みを紹介するパネル、市駅周辺の1/500の市街地模型、公共空間を活用する社会実験で設置したピクニックアイテム等。

**主　　催**　和歌山大学観光学部永瀬研究室

**問合せ先**　TEL. 073-457-8562（研究室直通）

**市駅まちなか まちぐるみミュージアム**については、市駅GGP（社会実験）HPにてパンフレットを公開しています。
https://shiekiggp.wixsite.com/wakayama-ggp

# 市駅まちづくり展

## ー和歌山市駅前を一歩ずつ未来へー

### ごあいさつ

本日は「市駅まちづくり展」にご来場いただきありがとうございます。
この度、和歌山大学観光学部永瀬研究室では、市駅周辺の地域の方々とともに二人三脚で取り組んできた7年間のまちづくりの歩みとこれからについて、パネルやスライド、市街地模型、活動で使用してきたアイテム等を用いてご紹介する展示会を企画しました。

和歌山市民が親しみを持って「市駅」と呼ぶ南海和歌山市駅は、1903年（明治36年）に開業して以来、県と和歌山市の玄関口としてまちの発展を支えてきました。市駅とともに駅前のまちも発展してきましたが、1990年代以降は中心市街地の活力の低下、市駅の乗降客数の低下とともに、かつての賑わいは影を潜め、まちは大きく衰退しています。
そうした厳しい状況にありながらも、2020年は南海和歌山市駅ビルが市街地再開発事業によりリニューアルし、市駅周辺のまちにとっても大きな転機を迎えています。

都市計画・まちづくりを専門とする永瀬研究室では、市駅の再開発が具体化する以前の2014年に、市駅開業111年と銘打ち、市駅とまちの歴史と可能性について発信するパネル展を開催しました。これを契機に、市駅前の商店街、自治会の方々とのつながりが生まれ、同年秋にこれらの地域の主体と共同で「市駅まちづくり実行会議」を結成しました。この組織を母体として、市駅前のまちの将来像を検討するためのまちづくりワークショップ、市駅前通りを「緑と憩いの広場」として活用する社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」等の実践活動に取り組んでまいりました。さらに2018年には市駅まちづくり実行会議の主要メンバーが中心となって「一般社団法人　市駅グリーングリーンプロジェクト」を設立し、市駅周辺の持続的なまちづくり、エリアマネジメントを推進しています。

市駅リニューアルの節目を迎えた本年、私たちの7年間のまちづくり活動の歩みと、現在進行形の取り組みについて市民の方々に発信し、共感と実践の輪を広げることで、さらなるステップアップにつなげたいと考えております。
それでは、どうぞごゆっくりとご覧ください。

2020年11月7日

和歌山大学観光学部永瀬研究室（都市・地域デザイン）
永瀬 節治（観光学部准教授）
池田 崇史，上田 晃士，戸上 稜涼，森尾 珠歩，義岡 梓，吉田 幹（以上、永瀬ゼミ3回生）

今回の展示企画に際し、以下の団体にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。
●協力団体一覧（敬称略、順不同）
一般社団法人 市駅グリーングリーンプロジェクト，市駅まちづくり実行会議，孫市の会
和歌山市都市建設局都市計画部都市再生課，南海電気鉄道株式会社

# ① 市駅周辺のまちの歴史



## 戦国期と近世城下町の記憶を伝える市街地

現在の和歌山市駅は、紀州藩（紀州徳川家）55 万 5 千石の城下町和歌山の北西の一角に位置しています。周辺には紀の川に設けられた湊があり、和歌山城の外堀（現・市堀川）が巡らされ、東側の鷺ノ森には戦国期から雑賀衆の拠点となっていた浄土真宗の鷺森御坊（現・本願寺鷺森別院）が構えていました。外堀には、城下の経済拠点だった本町・内町界隈と湊方面を結ぶ寄合橋が架けられ、その北側（現・世界一統の敷地の一部）には紀州藩の藩校がありました。付近には南方熊楠の生誕地や勝海舟の寓居地なども点在し、豊かな歴史に彩らています。

## 近代和歌山の玄関口としての発展

明治 36 年（1903）に大阪・難波と直結する南海鉄道（現・南海電鉄）の和歌山市駅が開業して以降、和歌浦方面に向かう市電や加太軽便鉄道（現・南海加太線）、国鉄紀勢西線（現・JR 紀勢本線）が開業し、交通の要衝となった市駅周辺は、和歌山市の玄関口として発展しました。昭和 20 年（1945）7 月の和歌山空襲により市駅周辺も大きな被害を受けますが、戦災復興都市計画事業により現在の市駅前通り（市道和歌山市駅前線）や北大通り、中央通り、城北通りなどが整備されました。昭和 30 年（1955）には近代的な 2 代目駅舎が完成し、市駅前通りを中心に駅前の商店街も発展しました。

## 高度成長期の光と影

昭和 48 年（1973）には 3 代目の駅舎となる南海和歌山ビルが開業し、核テナントとして髙島屋が入居するなど、ターミナルの装いを新たにしますが、昭和 46 年（1971）に市電（当時は南海和歌山軌道線）が廃止され、国鉄東和歌山駅（現・JR 和歌山駅）の発展とは対照的に、市駅の乗降客数は昭和 42 年（1967）をピークに減少傾向となりました。戦後に多くの雇用を生んだ住友金属（現・日本製鉄）和歌山製鉄所は、同時期に茨城県の鹿島製鉄所が創業を開始したことで規模を縮小し、和歌山市の人口も昭和 60 年の約 40 万人をピークに減少に転じます。中心市街地の衰退とともに市駅周辺の賑わいも失われていきました。

表 1　市駅とまちの主な出来事（年表）

| 和歌山市駅に関する出来事 | 西暦 | まち（和歌山市中心部）に関する出来事 |
|---|---|---|
| | 1563 | 雑賀御坊（現・本願寺鷺森別院）が現在地に移転 |
| | 1577 | 織田信長による雑賀攻め |
| | 1587 | 羽柴秀長による和歌山城の築城 |
| | 1619 | 徳川頼宣が入城し紀州徳川家（紀州藩）が成立 |
| | 1867 | 南方熊楠が橋丁に生まれる |
| 阪堺鉄道（後の南海鉄道）難波・大和川間開業 | 1885 | |
| | 1889 | 和歌山市が成立（市制施行） |
| | 1898 | 紀和鉄道（現・JR 和歌山線）和歌山駅（現・紀和駅）開業 |
| | 1901 | 和歌山城を和歌山公園として公開 |
| **和歌山市駅開業（南海鉄道全通・紀和鉄道延伸）** | **1903** | |
| 市駅・和歌浦間に市電開業 | 1909 | |
| | 1912 | 和歌山公園が市立公園になる |
| 加太軽便鉄道（現・南海加太線）・和歌山口駅開業 | 1914 | |
| | 1922 | 和歌山高等商業学校創立 |
| 国鉄紀勢西線（和歌山・箕島）開業 | 1924 | 国鉄東和歌山駅（現・JR 和歌山駅）開業 |
| | 1930 | 阪和電鉄（現・JR 阪和線）天王寺・東和歌山間開業 |
| | 1932 | 丸正百貨店開業 |
| | 1942 | 住友金属工業和歌山製鉄所が操業開始 |
| 和歌山空襲により和歌山市駅も被災 | 1945 | 第二次世界大戦（太平洋戦争）による和歌山空襲 |
| | 1946 | 和歌山市の戦災復興都市計画事業決定 |
| ジェーン台風により加太線和歌山市・北島間が不通に | 1950 | |
| 和歌山市駅の 2 代目駅舎完成 | 1955 | |
| 南海和歌山港線開業 | 1956 | |
| | 1958 | 和歌山城天守閣再建 |
| | 1962 | 戦災復興土地区画整理事業の概成 |
| 南海和歌山市駅の乗降客数ピーク（1 日約 5.4 万人） | 1967 | |
| | 1968 | 国鉄和歌山駅を紀和駅、東和歌山駅を和歌山駅に改称 |
| 市電（南海和歌山軌道線）廃止 | 1971 | 黒潮国体開催 |
| 南海和歌山ビル（3 代目駅舎）完成。髙島屋開業 | 1973 | |
| | 1981 | 和歌山市民図書館が湊本町（旧敷地）に開館 |
| 特急サザン運行開始 | 1985 | 和歌山市の人口ピーク（約 40.1 万人） |
| | 1987 | 和歌山大学が栄谷に統合移転 |

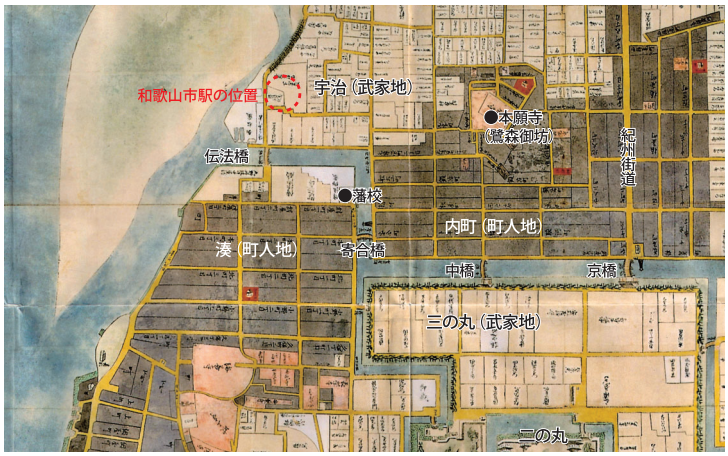



図 1　城下町時代の市駅周辺［安政二年和歌山城下町図（『和歌山市史』第十巻所収）に加筆］

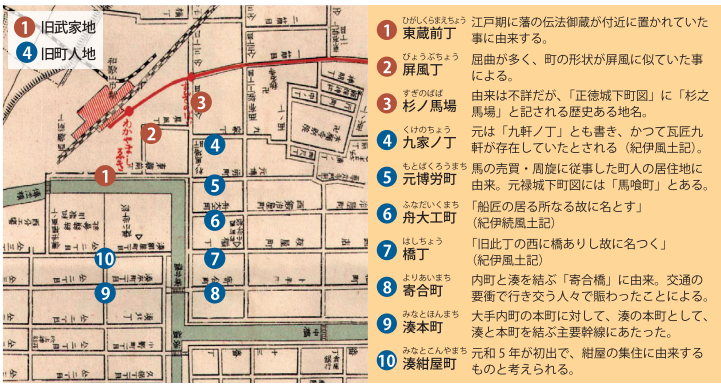
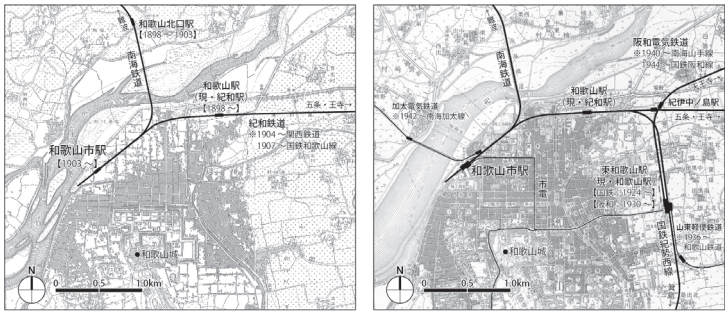



図 2　市街地に受け継がれる歴史ある地名［和歌山市街図（大正 4 年 , 永瀬研究室所蔵）に加筆］




▲ 明治期の和歌山市駅周辺の鉄道路線網
（1886 年測図の 2 万分の 1 地形図に加筆）

▲ 昭和初期の和歌山市駅周辺の鉄道路線網
（1934 年測図の 2 万 5 千分の 1 地形図に加筆）

図 3　明治～昭和初期の和歌山市の市街地を取り巻く鉄道網の変遷

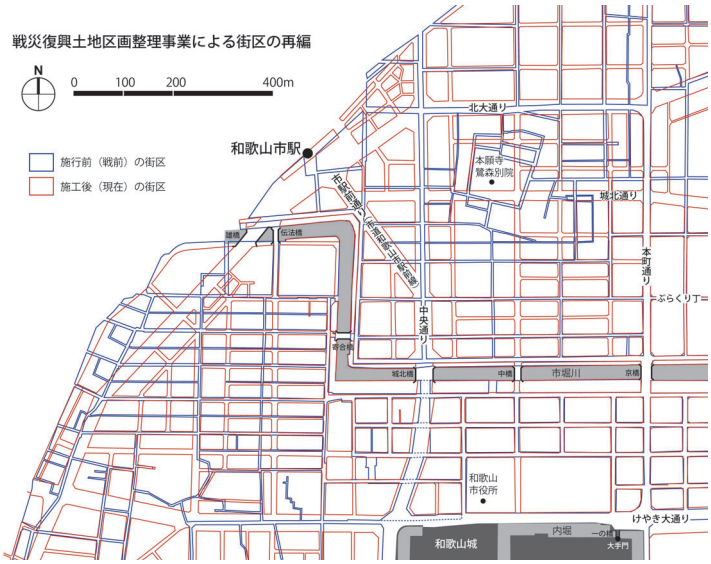


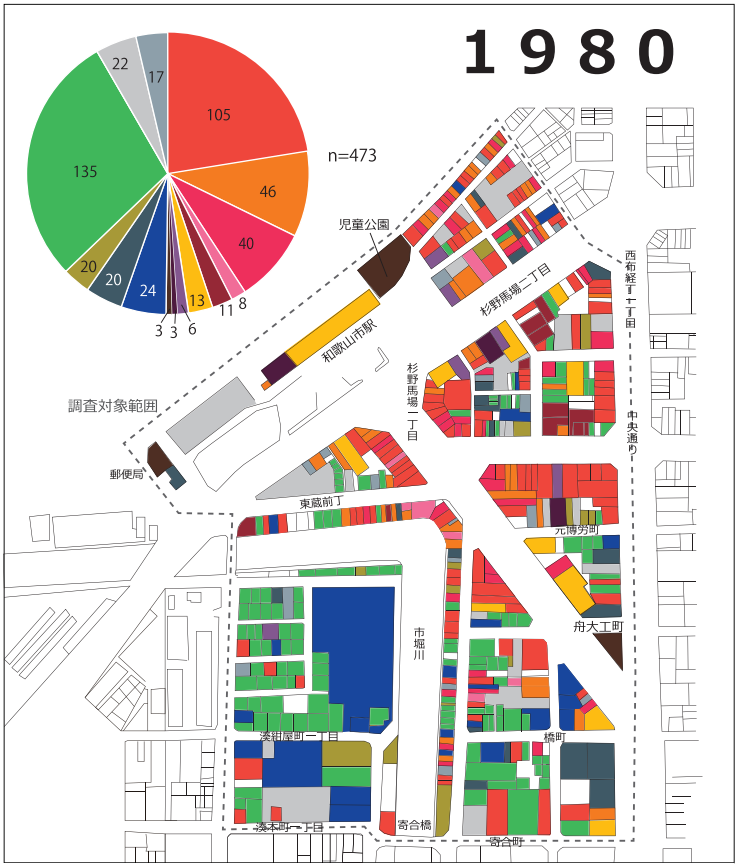

図 4　戦災復興都市計画（土地区画整理事業）による街区の再編
［『和歌山市戦災復興誌』（大阪市都市整備協会編 , 1992）の付図を基に永瀬研究室作成］

# ② 市駅周辺の建物用途の変遷

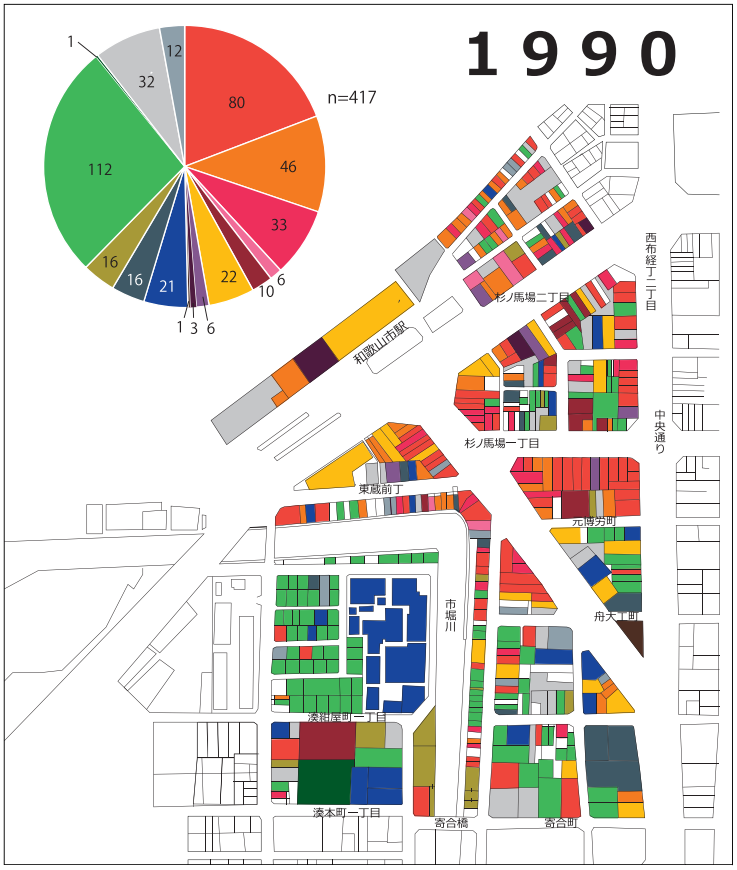
市駅まちづくり展
―和歌山市駅前を一歩ずつ未来へ―

時代の流れとともに市駅周辺のまちの表情も変化してきました。永瀬研究室では 1980 年・1990 年・2001 年・2013 年の４つの時代のゼンリン住宅地図をもとに、和歌山市駅周辺の建物用途の変遷を調査しました。

## 1980



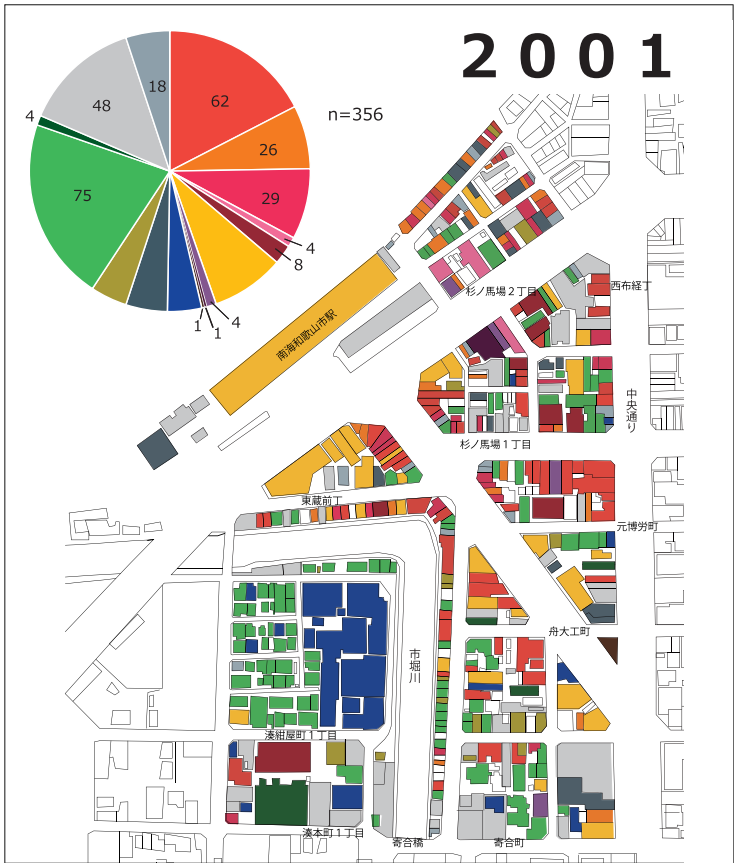

## 1990



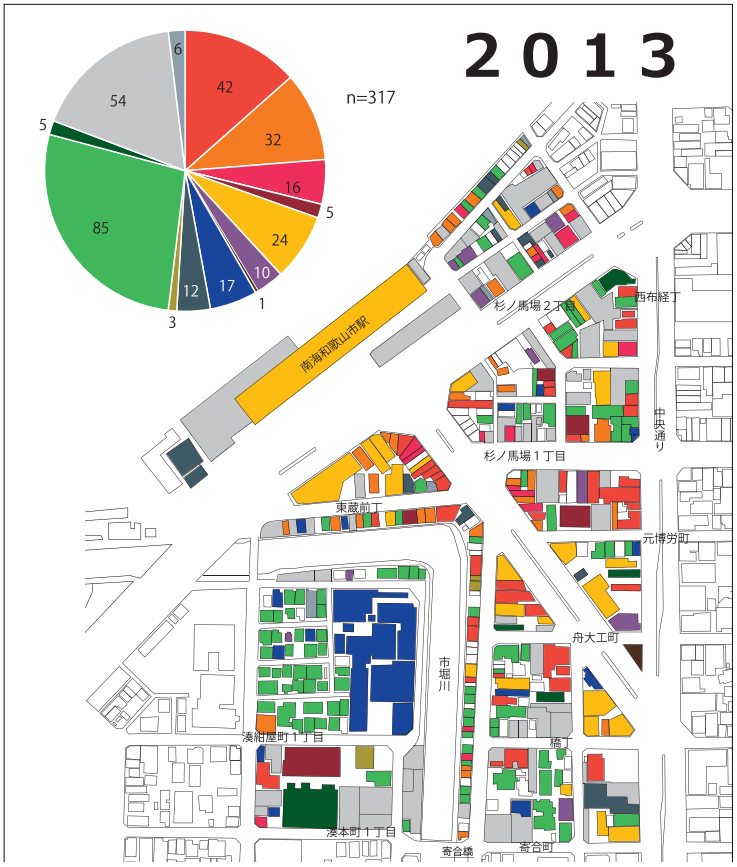

【凡例】
＜商業系＞ 個人商店／飲食店／服飾・美容／娯楽施設／旅館・ホテル／複合ビル
＜生活サービス系＞ 医療関係／金融機関／公共施設
＜物流系＞ 運輸関係／倉庫／事業所
＜住宅系＞ 個人住宅／集合住宅／駐車場／その他

※各年代のゼンリン住宅地図をもとに作成。
※円グラフの数値は住宅地図上で確認した対象範囲の建物軒数。
※対象範囲内で用途の特定できない建物（空き家など）は白抜き。

## 2001




## 2013




企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬研究室（都市・地域デザイン）

# ③ まちの衰退と活性化の動き

現在の和歌山市民図書館から眺めた市駅前の街並み

## 空白が目立つまち並み

人口減少と中心市街地の空洞化は現代の地方都市が抱える共通の課題です。県庁所在地である和歌山市の人口も 1985 年以降減少を続け、2020 年 10 月現在は約 35.4 万人です。市駅周辺地区（雄湊・城北・本町地区）の人口は一時的な増加も見られるものの減少傾向が続き、2006 年 10 月の 14,614 人に対し、2020 年 10 月は 12,908 人となっています（図 1）。また南海和歌山市駅の乗降客数は 2011 年から 2015 年まで一時的に増加しましたが、2016 年以降は減少しています（図 2）。現在の和歌山市の中心市街地（まちなか）には遊休不動産と駐車場が多く見られます（図 3）。十分に利用されていない建物や土地が多くあることは、人々が集まる賑わいの場が少ないことを意味します。そうした中で、2014 年以降はリノベーションまちづくりが行われ、遊休不動産を活用した新たな店舗等もみられるようになっています。

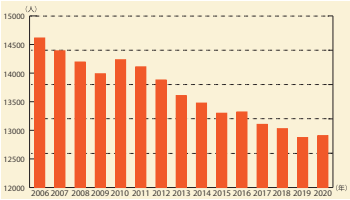


図 1 市駅周辺地区の人口の推移（2006~2020）
（和歌山市国勢調査基準人口データを元に作成）

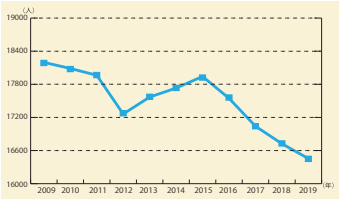


図 2 南海和歌山市駅の乗降客数の推移（2009~2019）
（『ハンドブック南海』を元に作成）

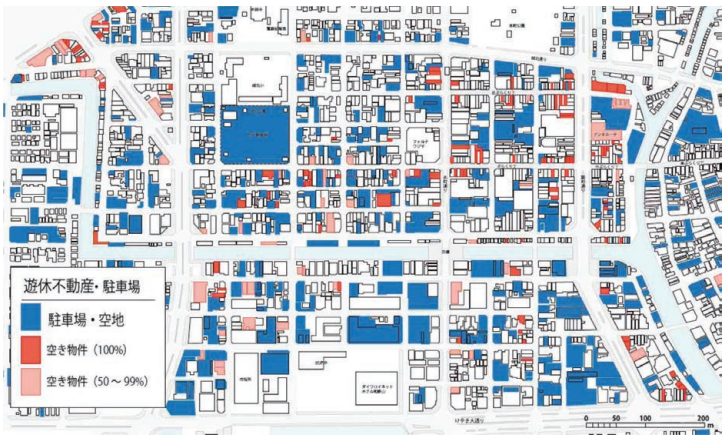


図 3 2014 年の和歌山市中心市街地の遊休不動産・駐車場
（出典：『和歌山市立地適正化計画』2018 年）

## 市駅前の活性化に向けた地域の取り組み

衰退する市駅前の活性化のため、1992 年に市駅周辺の複数の商店街から「市駅地区商店街連盟青年部会」が発足し、1994 年から駅前広場を会場に「市駅夏まつり」が開始されました。地元の子供たちの演奏、雑賀衆の鉄砲演武、音楽ライブ・漫才などのステージイベントや、地域からの出店が集まり、駅前を活気づける催しとして定着しています。2002 年からは戦国時代にこの地を拠点に活躍した雑賀孫市をテーマにした街おこしが進められ、2005 年には「孫市まつり」が開始されました。毎年 3 月下旬に開催される孫市まつりでは、和歌山城から練り歩く武者行列と、鷺森別院を会場とした鉄砲演舞や野外劇、音楽演奏等が繰り広げられ、県内外から多くのファンが訪れています。

図 4 2001 年の市駅夏まつりの様子
（森下幸生氏提供）

図 5 2005 年の第 1 回 孫市まつり * の様子
（森下幸生氏提供）
＊第 1 回は「鷺森御坊と孫市の街～花まつり」として開催

## 市駅再開発による新たなランドマークの誕生

2014 年 8 月に市駅ビルの核テナントであった髙島屋が撤退し、市駅前の衰退は加速しますが、2015 年 5 月に南海電鉄と和歌山市が共同で「和歌山市駅活性化計画（構想）」を発表しました。市駅ビルの建て替えを市街地再開発事業として実施し、更新時期を迎えた市民図書館も市駅に移転することになり、さらに全国的な知名度を持つホテルの導入や飲食店などが出店する商業ゾーンが計画されました。

2017 年 3 月にオフィス棟、その後図書館・ホテル・商業棟が竣工し、2020 年 7 月に「キーノ和歌山」として全面開業しました。コロナ禍での出発となりましたが、和歌山らしさを備えた生活・交流の新たな拠点として、若者から年配の世代まで多くの人々で賑わっています。年内にリニューアルする駅前広場も、積極的な活用が期待されます。

図 6 市街地再開発事業により完成した新たな市駅ビル「キーノ和歌山」

企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬ゼミ（都市・地域デザイン）

# ④ 市駅まちづくり実行会議の活動

市駅まちづくり展
―和歌山市駅前を一歩ずつ未来へ―

## 市駅でのパネル展とまちづくり組織の発足

2012 年に発足した和歌山大学観光学部永瀬研究室（都市・地域デザイン）では、翌年に南海電鉄関係者と観光学部教員の間で行われた、今後の和歌山市駅のあり方に関する非公式的な検討会に永瀬が参加したことが契機となり、同年秋から市駅と周辺のまちに関する資料収集や現地調査を行いました。その成果を市民に発信し、市駅とまちの歴史と潜在力について理解を深めてもらうため、2014 年 3 月の市駅開業記念日を含む 4 日間、市駅開業 111 周年にあたることを記念し、「市駅の鼓動・都市の記憶」と題したパネル展を開催しました。同年 8 月上旬には、閉店する髙島屋和歌山店との共同により 2 回目の展示会が企画され、ここでは市駅周辺のまちづくりの提案パネルを加え、「まちらぼ　～未来を想像し、創造する～」と題して開催しました。この展示会に訪れた地元商店街関係者から相談を受け、同年 10 月に永瀬研究室と市駅前の商店街（和歌山市駅地区商店街連盟）・自治会（城北地区の 7 自治会）の参画により「市駅まちづくり実行会議」が発足しました。

## 地域主導によるワークショップの開始

「市駅まちづくり実行会議」は、専門性を持つ大学研究室と、商業者を代表する商店街組織、生活者を代表する自治会という 3 者の協働により、市駅周辺のこれからのまちづくりについて具体的に検討し、アクションを起こすために立ち上げられました。具体的な取り組みとして、2014 年 11 月から「市駅まちづくりワークショップ」を開始し、市駅周辺の住民だけでなく市内の市民有志や行政職員にも広く参加を呼びかけ、市駅周辺のまちの課題と地域資源、それらを踏まえた今後のまちのあり方について、おおむね 2 ヶ月に 1 回のペースで議論を重ねました。毎回のワークショップの結果は「市駅まちづくり通信」にまとめ、自治会を通じて周辺住民に配布するとともに、和歌山市都市再生課のホームページでも公開され、広く取り組みを発信してきました。

## 社会実験の実施とまちの将来像の検討

第 2 回のワークショップの中で、駅前の顔となる市駅前通りから変えていくべきという方向性が共有されたことから、第 3 回では今後の市駅前通りのあり方について具体的なアイデアを議論し、第 4 回にて、市駅前通りを歩行者のための広場として活用する社会実験の実現に向けた検討を行いました。これらのプロセスを経て、2015 年秋に市駅前通りの一部を歩行者天国化し、「緑と憩いの広場」として活用する社会実験「市駅 “グリーングリーン” プロジェクト」が初めて実施されました。その後、ワークショップや 2 回の社会実験等を通じて市駅前のまちづくりの具体的なイメージが共有される中で、約 30 年後までを見据えた市駅前のまちづくりの将来像を示す「市駅まちづくり実現構想：2017 ▶2050（暫定版）」を第 10 回のワークショップにて提示し、これからのまちづくりの具体的なアイデアとシナリオを取りまとめました。

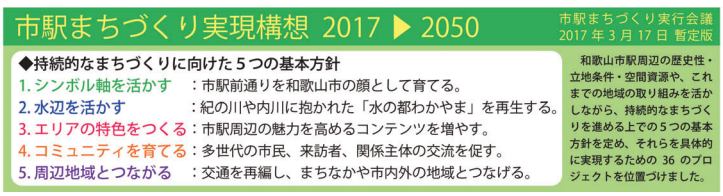



図 5 「市駅まちづくり実現構想 2017▶2050」の 5 つの基本方針
（『市駅まちづくり通信』第 11 号より）

図 1　2014 年に市駅ビルで開催した展示会のポスター
（左：和歌山市駅開業 111 周年「市駅の鼓動・都市の記憶」、右：「まちらぼ：未来を想像し、創造する」）

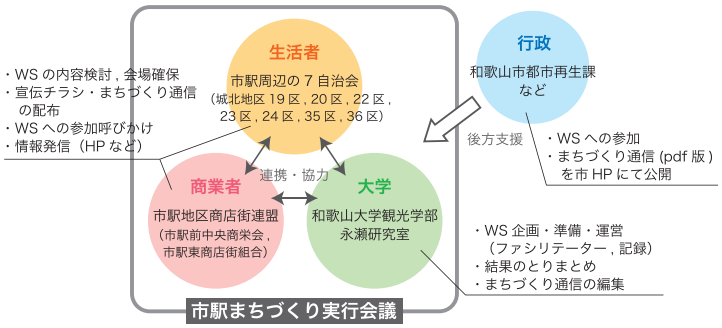



図 2　市駅まちづくり実行会議の体制と、まちづくりワークショップでの役割

図 3　城北連絡所での「市駅まちづくりワークショップ」の様子

図 4 『市駅まちづくり通信』創刊号（左）と第 4 号（右）

企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬研究室（都市・地域デザイン）

# 5 市駅“グリーングリーン”プロジェクト
## ～市駅前通りを緑と憩いの広場にする社会実験～【2015-2017】

市駅まちづくり展
－和歌山市駅前を一歩ずつ未来へ－

「市駅“グリーングリーン”プロジェクト 2016」の芝生広場の様子

## 市駅前通りを「緑と憩いの広場」に変える試み

市駅前の顔となる市道和歌山市駅前線（市駅前通り）は、クスノキ並木の中央分離帯を持つ幅員 30m の幹線道路です。しかし沿道の店舗は減少し、朝夕を除くと歩く人もまばらな現状がありました。また、駅前に人々が憩える場所がないことや、自動車交通量が減少していることを踏まえ、2015 年から市駅前通りの一部を「緑と憩いの広場」として活用する社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」* が開始されました。これは市駅前通りの北進車線の一部を歩行者天国化し、天然芝を敷き詰めたピクニックエリアを中心に、マーケットやオープンカフェを設け、木陰で憩える広場を創出することで、新たな街路のあり方を市民が体感する「社会実験」として企画したものです。

準備段階では、和歌山市の全面的な協力を得ながら、警察との協議や、市駅前通りを運行する路線バス会社との調整など、多くのハードルを乗り越える必要がありました。また車道への芝生設置やマーケットの運営など、いずれも手探りでしたが、思いを共有する協力者・支援者の輪が広がり、地域主導による社会実験が実現しました。

＊市駅“グリーングリーン”プロジェクト」の名称は、緑の green と「拾い集める」を意味する glean を掛け合わせ、市駅周辺の地域資源を集め、緑あふれる、人と環境にやさしいまちづくりを目指す試みとして、「GREEN GLEAN PROJECT」と名づけたものです。

## 企画内容と協力体制の広がり

2015 年 9 月の土日に実施した社会実験では、若年層の減少と高齢化の進むまちなかに、芝生の上を子供たちが駆け回り、大人たちも飲食や談笑をしながら、のんびりと時間を過ごす光景が現れました。２日間で延べ 6 千人近くの来場者があり、アンケート調査からは、近隣以外からも多くの人々が訪れ、回答者の大半がこの取り組みを支持する結果が示される等、予想以上の反響を得ることができました。

こうした成果を受け、2016 年は金・土・日の３日間で実施し、和歌山県警のご協力により、近畿圏初となる夜間を含めた歩行者天国化を実現することができました。2017 年にはクラウドファンディングを行うことでさらに支援の輪を広げ、24 時間楽しめる芝生広場を中心に、公共空間の楽しみ方を発信するさまざまな企画を試みました。

また社会実験の一環として、2015 年より市堀川（和歌山城の旧外堀）でクルーズ船を運航し、ポポロハスマーケットやわかやま水辺プロジェクト等の企画と連携を行いました。さらに 2016 年からは市駅周辺の店舗や施設で特別な体験プログラムを提供する「まちぐるみミュージアム」など、まちなかのさまざまな資源を活かした企画も展開し、協力・連携体制を拡充しました。

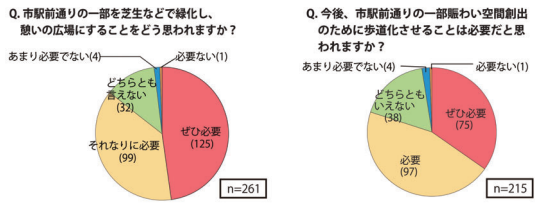


図 1　2015 年の「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」のアンケート結果の一部

図 2　「市駅“グリーングリーン”プロジェクト 2016」の会場全体図

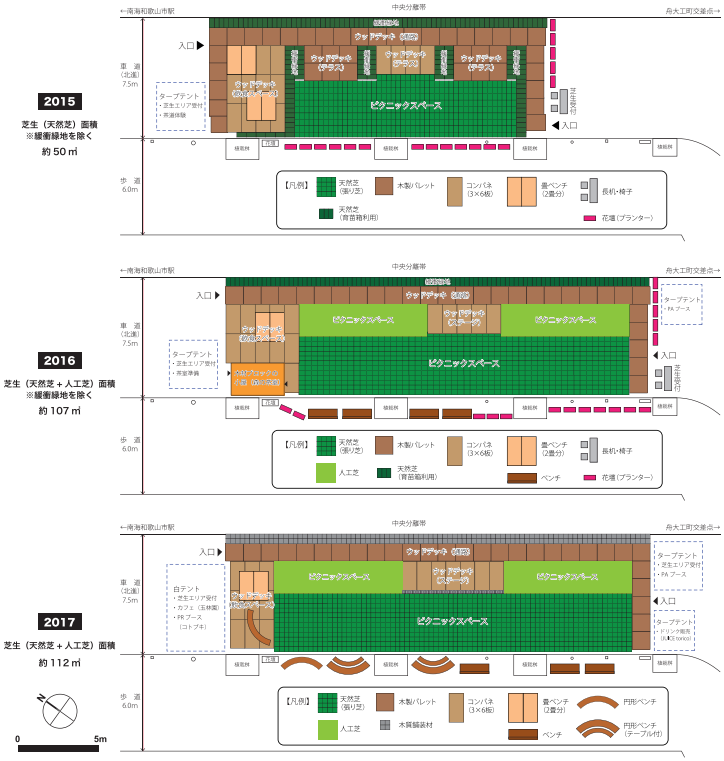


図 3　市駅前通りでの「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」で設置した芝生エリアの変遷

企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬研究室（都市・地域デザイン）

# ⑥ 市堀川クルーズ / まちぐるみミュージアム

市駅まちづくり展
―和歌山市駅前を一歩ずつ未来へ―

## 市堀川クルーズ（2015 - 2017）
## ：城下町の水辺の記憶を伝える空間資源を活かす

市駅前通りでの「市駅 “グリーングリーン” プロジェクト」に際しては、社会実験の一環として「市堀川クルーズ」を実施してきました。これは市駅付近を流れる市堀川（和歌山城の旧外堀）に着目し、船の上からまちの眺めを楽しんでもらうことで、かつて舟運で賑わった城下町の記憶に触れ、水辺のまちの魅力を引き出そうと企画したものです。

2015 年は大阪市立大学の南繁行教授のご協力により、電動で航行可能な「プラグインハイブリッド船」を活用し、ぶらくり丁で開催されるポポロハスマーケットとも連携して実施しました。市駅付近（川沿いの民間敷地を活用）とぶらくり丁付近（雑賀橋）に設けた乗船場の間で 2 日間運航し、延べ 300 人近くに乗船していただきました。

参加者の好評を受け、2016 年は市堀川沿いの市営京橋駐車場を会場に市が主催する「まちなか河岸にぎわい横丁」、2017 年は市が実施する水辺活用の社会実験「わかやま水辺プロジェクト」と連携し、市が所有する船を活用して運航しました。このような取り組みの活発化により、市では京橋駐車場を親水公園として再整備する計画が進められるなど、市堀川をまちづくりに活用する気運が高まっています。

図 1 2015 年の「市堀川クルーズ」の案内チラシの一部

図 2 2015 年の「市堀川クルーズ」の様子

図 3 2017 年の「市堀川クルーズ」の様子

## まちぐるみミュージアム（2016 - 現在）
## ：「まちぐるみ」で魅力的な体験を発信・提供する

社会実験の関連企画として、市駅周辺にある店舗や公共施設等で、ものづくりや産業・生業、食、歴史文化などに関する特別な体験プログラムを提供する「市駅まちぐるみミュージアム」を 2016 年から開催しています。これはまちづくりワークショップの中で、さまざまな地域資源を活用したコンテンツを観光客に提供するアイデアが出されたことを受け、それらを期間限定で実現しようと試みたものです。

初回となる 2016 年は、市駅前通りの歩行者天国期間を含む 18 日間で開催しました。34 の施設・店舗等の協力を得て 45 プログラムを提供し、延べ 1300 人以上の参加がありました。2017 年は歩行者天国に合わせた 3 日間で 23 プログラムを用意し、集客面でも相乗効果を図るとともに、南海電鉄和歌山車庫の見学会、浴衣の着付けや小物づくり等を組み合わせたツアープログラム等も企画しました。また 2018 年は 10 日間で計 27 のプログラムを提供し、新たに飲食店の協力により特別なメニュー等を楽しめる「まちぐるみレストラン」も企画しました。

2019 年からは「市駅まちなか まちぐるみミュージアム」としてリニューアルし*、新たなプログラム主催者の発掘や広告協賛など、仕組みや実施体制を充実させながら、2019 年は 25 プログラム、2020 年は 21 プログラムを提供しています。

＊2018 年までは永瀬研究室が企画を担い、2019 年からは（一社）市駅グリーングリーンプロジェクトの地域活性化事業として引き継がれています。

図 5 2016 年の「市駅まちぐるみミュージアム」パンフレット表紙

図 4 世界一統の酒蔵体験（2016 年）

図 6 南海和歌山車庫の見学会（2017 年）

図 7 2019 年の「市駅まちなか　まちぐるみミュージアム」パンフレット

企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬研究室（都市・地域デザイン）

# 7 市駅“グリーングリーン”プロジェクト【2018-2020】シエキノカワでピクニック。

市駅まちづくり展
―和歌山市駅前を一歩ずつ未来へ―

## 市駅近くの紀の川の価値を発信する試み

2015 年から開始した社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」をきっかけに、市駅前通りの歩行者空間の拡張が和歌山市と地域の間で具体的に検討される段階に移ったため、2018 年からは市駅近くの紀の川河川敷を活用する社会実験を実施しました。

市駅の北側を流れる紀の川は、駅の裏手にあたり、日常的に利用する人は限られますが、歴史的に和歌山市の発展を支えた地域資源であり、都市の中で自然と触れ合える貴重なオープンスペースです。そこで市駅近くの河川敷（紀の川第 5 緑地）の芝生広場を「シエキノカワひろば」と名づけ、市駅から歩いて行ける紀の川の魅力を体感してもらう社会実験「シエキノカワでピクニック。」を企画しました。

河川敷を活用するため、地域の方々や関係者の協力により草刈りや清掃を行い、当日はハンモックやイスを並べたピクニック広場を中心に、音楽ステージ、ヤギとのふれあい体験、ヨガ体験、ものづくり体験、カヌー体験、さらに特別に許可を得て、手ぶらで楽しめる事前予約制の BBQ スペースや飲食物を販売するフードエリアを設けました。

## 開放的な水辺での豊かな時間を演出

初の試みとなった 2018 年の社会実験では、親子連れや若者から年配の方々まで、幅広い世代の方々にゆったりとした河川敷でのひと時を過ごしてもらうことができました。会場へのアクセスの分かりにくさ等の課題もありましたが、来場者数は 300 人以上となりました。

一方で、来場者アンケートでピクニックを体験した実感が乏しいという意見多かったことから、2019 年はピクニックの雰囲気づくりを重視しました。おしゃれな統一感のある会場演出を試み、ハンモックに加え、デッキチェアやティピーテントなどをピクニックエリアに設置しました。会場面積も拡大し、フードエリアには事前予約制の BBQ スペースに加え、和歌山市内の人気の飲食店を集めました。その他、音楽ステージ、ヤギとのふれあい体験、小さな水族館、ヨガ体験、ワルツ体験、ものづくり体験、スラックライン体験、カヌー体験、本や雑貨を販売するエリアなどコンテンツをさらに充実さました。来場者数は前年の倍以上となる 649 人となり、若い世代を中心に昨年度よりも多くの方々に河川敷でのひと時を過ごしてもらうことができました。

## コロナ禍での水辺利用を提案

2020 年は新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われましたが、新たな市駅ビル「キーノ和歌山」も開業し注目が集まる中で、人々が屋外で密集せずにくつろげる「水辺の憩いの場」としてのシエキノカワひろばの可能性を発信するため、感染症対策を講じながら実施しました。それまでのステージイベントや出店などの集客型コンテンツを削減・縮小し、縁側をイメージした畳ベンチの設置など、水際の風景を眺めながらゆったりと時間を過ごせる空間づくりを試みました。

また今回は夕暮れの時間帯を中心に開催し、紀の川の夕焼けを背景にしたサインボードの設置や、キャンドルライトや誘導灯による光の演出、手持ち花火の無料配布などを行い、普段は味わえない河川敷の空間演出も行いました。コロナ禍にも関わらず BBQ スペースやカヌー体験は事前予約で埋まり、来場者数は延べ 300 人以上となるなど、このような場所や取り組みへのニーズを再確認することができました。

図 1 水辺の音楽ステージ（2018 年）

図 2 カヌー体験（2018 年）

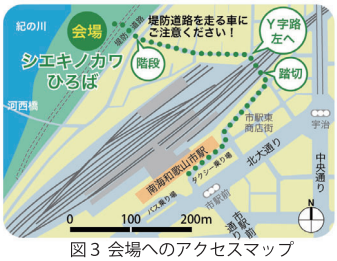



図 3 会場へのアクセスマップ

図 4 会場全体の眺め（2019 年）

図 5 シエキノカワひろば会場図（2019 年）

図 6　夕暮れのピクニックエリア（2020 年）

図 7　会場ゲート（2020 年）

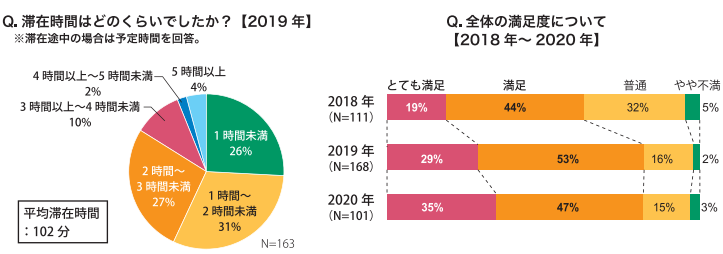



図 8 「シエキノカワでピクニック。」のアンケート結果の一部
（左：2019 年の回答者の滞在時間　右：2018 年～ 2019 年の回答者の満足度）

企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬研究室（都市・地域デザイン）

# ⑧ 市駅地区のエリアマネジメントへ



## 市駅地区のまちづくり活動の発信と評価

市駅前通りなどの公共空間の活用を中心とした地域主導型のまちづくりは、次第に地域外からも着目されるようになりました。市駅前通りでの社会実験「市駅 “グリーングリーン” プロジェクト」の実施期間中は、多くの市民や市外からの来訪者に加え、和歌山市の尾花市長にも足を運んでいただき、さらに神戸市や大阪市、松山市など、県外の自治体職員やまちづくり関係者も視察に訪れるようになりました。2018 年 2 月には、豊かな公共空間の可能性を発信する Web メディア「ソトノバ」のレポート記事でも取り上げられたほか、2018 年度には和歌山市の「わかやま市民協働大賞・優秀賞」、さらに日本都市計画学会関西支部による「関西まちづくり賞・奨励賞」も受賞することができました。

図 1 Web メディア「ソトノバ」で紹介された市駅前通りでの社会実験
（https://sotonoba.place/gleangreen）

## ( 一社 ) 市駅グリーングリーンプロジェクトの設立

市駅まちづくり実行会議の発足から 5 年目を迎え、社会実験の取り組みと並行して市駅の再開発事業も進展する中で、さらなるまちづくりを推進するための法人格を持った組織の必要性が認識されるようになりました。そこで、情報共有・合意形成の母体として同会議を維持しつつ、市駅地区のエリアマネジメント[1] に取り組む新たな実働組織として、2018 年 7 月に「一般社団法人 市駅グリーングリーンプロジェクト（（一社）市駅 GGP）を設立しました。2019 年 6 月には和歌山市により都市再生推進法人[2] に指定され、まちづくりにおいて公的な役割を担う組織として、行政や市内のまちづくり会社、民間団体等と連携しながら、社会実験等を通じた関連データ等の収集、公開講演会等によるまちづくりの普及啓発、「市駅まちなか まちぐるみミュージアム」や地域イベント等の地域活性化事業に取り組んでいます。

図 2 2018 年度「関西まちづくり賞」授賞式の様子

図 3 小野寺康氏の公開講演会ポスター

[1] **エリアマネジメント**とは、国の定義では「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業者・地権者等による主体的な取り組み」（国土交通省 , 2008）とされ、特定のエリアを対象に、民間が主体となり（官民で連携しながら）、エリアの価値を高めるまちづくり・地域経営を行うものです。

[2] **都市再生推進法人**とは、都市再生特別措置法に基づき、まちづくりの新たな担い手として行政の補完的機能を担いうる団体を市町村が指定するものです。2020 年 3 月末時点で全国で 67 団体、和歌山市内では 10 団体が指定されています。

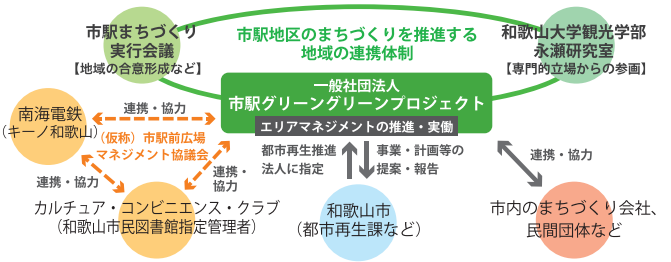



図 4 市駅地区のまちづくりを推進するための連携・協力体制（2019 年以降）

## 豊かな公共空間を活かしたまちづくりに向けて

（一社）市駅 GGP では、2020 年内にリニューアルされる市駅前広場の活用に向け、和歌山市民図書館の指定管理者であるカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）と南海電鉄、和歌山市との連携により、広場の効果的なマネジメントを行うための協議会の設立に向けた準備を進めています。また 2015 年～2017 年に市駅前通り（市道和歌山市駅前線）で実施した社会実験の成果を踏まえ、新たな市駅前通りのあり方についても、和歌山市と連携しながら 2018 年度より検討を進めています。和歌山市の新たな玄関口に相応しい風格を備え、人々が集い、「緑と憩い」にあふれる新たなシンボルストリートとして再生することを目指し、歩行者空間と緑地を充実させた街路整備案と、それらの維持管理・活用（マネジメント）に関する方針・方策を「市駅前線再生プラン」として策定中です。

これまでの取り組みを内容・体制ともに徐々にステップアップさせながら、「公民学」の連携によるまちづくりが着実に進められています。

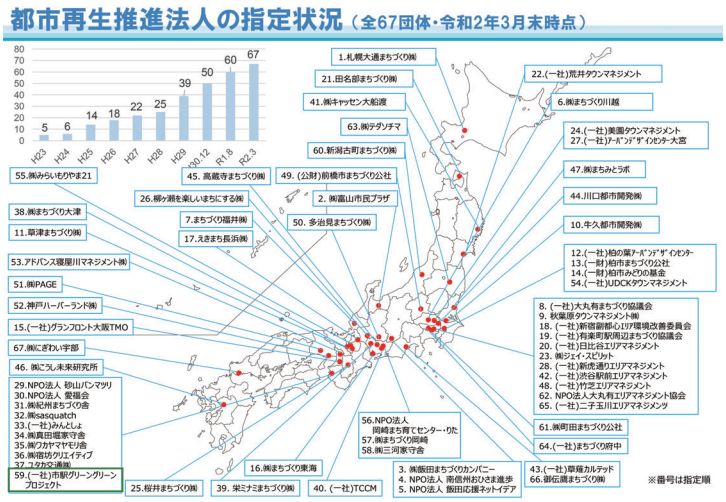



図 5　2020 年 3 月現在の都市再生推進法人の指定状況
（国土交通省「官民連携まちづくりポータルサイト」（https://www.mlit.go.jp/toshi/seido/index.html）より）

# 市駅地区のまちづくりの歩み

## 市駅地区のまちづくりの動き

▲2001 年の市駅夏まつりの様子

▲2005 年の「鷺森御坊と孫市の街～花まつり」の様子

1992 市駅地区商店街連盟青年部会 設立

1994 第1回 市駅夏まつり 開催

1999 市駅さくらモール 発足

2003 市駅前シンボルキャラクター「まごりん&ヤタっち」誕生

2005 「鷺森御坊と孫市の街～花まつり」（第1回 孫市まつり）開催

2006 孫市の会 発足

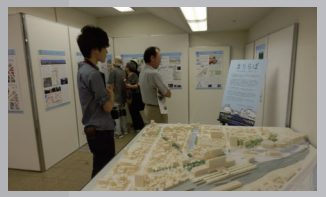
2012 和歌山大学観光学部永瀬研究室（都市・地域デザイン）発足

永瀬研究室による市駅周辺の歴史・現況調査の開始 2013.10～

2014.3 市駅開業 111 周年「市駅の鼓動・都市の記憶」

永瀬研究室によるパネル展

2014.8 「まちらぼ」※和歌山タカシマヤの歴史パネル展と同時開催



▲「和歌山タカシマヤの歴史パネル展」と共同開催した展示会「まちらぼ：未来を想像し、創造する」の様子

2014.10 市駅まちづくり実行会議 発足

2014.11 市駅まちづくりワークショップ

第1回 2015.1 第2回 2015.4 第3回 2015.6 第4回 2015.8 第5回 2015.11 第6回 2016.2 第7回 2016.4 第8回

2015.6 南海和歌山市駅活性化構想への市民参画に関する要望書 提出

2015.8 南海和歌山市駅周辺活性化会議 発足

2015.9 市駅“グリーングリーン”プロジェクト ～市駅前通りを緑と憩いの広場にする社会実験～

2015
- 市駅プロジェクションマッピング（和歌山 JC）
- ポポロハスマーケットと連携

市堀川クルーズ 2015

▲第 1 回市駅まちづくりワークショップの様子

▲2015 年の市駅“グリーングリーン” プロジェクトの様子

2014.3 第 10 回 孫市まつり

2014.8 第 21 回 市駅夏まつり

2015.3 第 11 回 孫市まつり

2015.8 第 22 回 市駅夏まつり

2016.3 第 12 回 孫市まつり

1990 2000 2010 2014 2015 2016

## 市駅とまちの出来事

1997 和歌山市が中核市に移行

1998 大丸百貨店 閉店

2001 丸正百貨店 閉店

2002 ビブレ 閉店

2007 和歌山市中心市街地活性化計画 策定 フォルテワジマ 開店

2014.8 高島屋和歌山店 閉店

▲再開発前の市駅ビル（南海和歌山ビル）

2015.5 和歌山市が南海和歌山市駅活性化構想 南海電鉄が和歌山市駅活性化計画（市街地再開発事業など）を発表

▲当初の南海和歌山市駅活性化構想の整備イメージ（和歌山市資料より）

# 市駅まちづくり展
―和歌山市駅前を一歩ずつ未来へ―

2016.7 和歌山市駅前広場整備推進協議会開始

2016.7 第 9 回

2017.3 第 10 回

2017.3 「市駅まちづくり実現構想 2017▶2050（暫定版）」提案

・市駅前通りの再生をはじめとするエリアマネジメント推進のための法人組織の必要性

2018.7 一般社団法人 市駅グリーングリーンプロジェクト設立

2018.12 和歌山市「わかやま市民協働大賞」優秀賞　受賞

2019.4 日本都市計画学会関西支部「関西まちづくり賞」奨励賞　受賞

2019.6 和歌山市により都市再生推進法人に指定

2019.7 公開講演会「公共空間から都市を再生する」講師：小野寺康氏

2019.8 市駅前線再生プランの検討開始

2020.7 市駅前広場の活用に向けた意見交換会

▲市駅“グリーングリーン”プロジェクト 2017 の様子

▲2019 年の《シエキノカワでピクニック。》の様子

2018.11 市駅“グリーングリーン”プロジェクト《シエキノカワでピクニック。》

2016.9-10 2016

・近畿圏初の 24 時間通行止めによる社会実験を実現。
・まちなか河岸（京橋駐車場）と連携

2017.9 2017

・クラウドファンディングの実施
・「公共空間トークセッション」開催
・わかやま水辺プロジェクトと連携

2018

・紀の川河川敷（紀の川第 5 緑地）で初実施
※台風 21 号の影響により 11 月に延期実施

2019.10 2019

・ピクニックアイテム・コンテンツを拡充
・国土交通省和歌山河川国道事務所とも連携

2020.9 2020

・コロナ禍により集客型コンテンツを削減
・「夕暮れのシエキノカワでピクニック。」として実施。

2016 2017

市駅まちぐるみミュージアム

2016 2017 2018.9 2018

市駅・まちなかまちぐるみミュージアム

2019 2020.11 2020

2016.8 第 23 回 市駅夏まつり

2017.3 第 13 回 孫市まつり

2017 第 24 回 市駅夏まつり ※市駅前通りで開催

2018.3 第 14 回 孫市まつり

2018 第 25 回 市駅夏まつり ※城北通りで開催

2019.3 第 15 回 孫市まつり

2019.8 第 26 回 市駅夏まつり ※城北通りで開催

## 2017

2016.9 カンデオホテルズの出店決定

2017.3 オフィス棟竣工（南海和歌山市駅ビル）

2017.4 旧市駅ビル解体工事着手

## 2018

2017.12 施設建築物工事着工

2018.6 駐車場棟　完成

▲南海和歌山市駅活性化構想の完成後のイメージ（和歌山市資料より）

## 2019

2019.8 複合施設全体の名称「キーノ和歌山」発表

2019.12 和歌山市民図書館一部開館

▲完成後の「キーノ和歌山」

## 2020

2020.6 「キーノ和歌山」グランドオープン

2020.7 「カンデオホテルズ南海和歌山」オープン

企画・作成：和歌山大学観光学部　永瀬ゼミ（都市・地域デザイン）